

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	吹奏楽レパートリー共同研究
------	---------------

研究代表者

氏名 清水和高	所属 芸術・スポーツ科学系	職名 准教授
------------	------------------	-----------

研究分担者

氏名 Jean Carlo	所属 ルクセンブルク王立音楽院	職名 教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

世界的フルート奏者であり、指揮者として活躍しているカルロ・ヤンス氏を本学に招き、本学学生を対象とした指導と、共同での吹奏楽レパートリー研究を行った。

まず吹奏楽の履修生80余名を対象とした指導は、英語で通訳を介せず2日間連続し行った。演目として取り上げた楽曲は、カルロ氏の同僚であるルクセンブルクの作曲家マルコ・プッツ氏の作品を2曲選曲した。1曲目は中難易度の吹奏楽曲、2曲目は吹奏楽とフルート独奏という大変珍しい編成であり最高難易度の楽曲である。

2日間の指導の集大成として、本学芸術館学芸の森ホールにおいて演奏会形式で近隣住民や音楽家関係者を対象とした研究発表会を行った。マルコ氏の楽曲はまだあまり日本では知られておらず本邦初演となったが、1曲目の中難易度の曲は、今後中高生の主要なレパートリーとして広まっていくことと思う。2曲目の吹奏楽とフルート独奏の楽曲は、その音量の差からソリストとのバランスを取ることが大変難しいがために、あまり作曲されない編成である。しかしながらこの曲にはそういったことを感じさせない様々な工夫が施されており、この編成においても、今後の日本吹奏楽会において主要なレパートリーのひとつになっていくことと思う。

吹奏楽の指導とカルロ氏との共演は、学生たちに強い印象を与えたことは、終演後の学生たちの口々から発せられた一言一言に現れていた。日本とはあきらかに違うクラシック音楽の本場の生の音や指導に接することは、彼らのこれからの音楽人生にとって大きな経験になったものと思う。

続いて主目的の吹奏楽レパートリー研究とは直接関係はないが、本学音楽科学生を対象とした公開レッスンを行った。レッスンでは4人の受講生に対し古典派からロマン派までの楽曲の指導をし、他学生はそれを聴講するという公開形式を取った。ここでも一切通訳を介せず、英語での指導を基本とした。レッスンでは技術面や音楽表現まで、カルロ氏の高い見識のもと指導を受けたが、一方的に指導を受けるといった形ではなく、学生の考えを常に問いながらレッスンを展開していくという形であった。ここでも学生たちの語学力を試されることになり、より実用的な語学能力を身に付けさせる必要性を感じる良い機会となった。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]
※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

2014吹奏楽研究発表会
 Jean Carlo 公開レッスン